

教育・研究業績書

診療科名

越谷病院呼吸器内科

<教員の紹介>

教 授 相良 博典

准 教 授 一和多俊男

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月	概 要
<b>① 教育内容・方法の工夫 (授業評価を含む)</b>		
1, 学生の臨床実習	2004年5月～現在	BSL およびクリニカルクラークシップにおいて、特に患者の病態を理解上で呼吸機能重要性を臨床を通して分かり易く教育した。
2, 学生講義	2004年5月～現在	呼吸生理学の重要性を、学生が興味を持つように具体的、分かり易く講義した。
3. 埼玉県立大学短期大学看護学科講義	2004年5月 ～2005年7月	看護学生に患者の病態をより理解するために、呼吸器病を生理学面を中心に講義した。
<b>② 作成した教科書、教材、参考書</b>		
<b>③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項</b>		
第14回日本呼吸管理学会学術集会ワークショップ「COPD患者における運動時骨格筋エネルギー代謝の検討」	2004年8月	呼吸リハビリテーションに関する基礎を講演した。
第44回臨床呼吸機能講習会	2004年8月	若手医師。コメディカルに呼吸機能を講義した。
第15回日本呼吸管理学会学術集会シンポジウム「パルスオキシメータを使いこなす」	2005年7月	より臨床において、パルスオキシメータを正しく使いこなせるための講演した。
第16回日本呼吸管理学会学術集会ワークショップ「呼吸管理における非侵襲的モニタリング；パルスオキシメータ臨床応用」	2005年7月	パルスオキシメータのデータを誤差原因について講演した。
第45回臨床呼吸機能講習会	2005年8月	若手医師。コメディカルに呼吸機能を講義した。

第14回日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門 医大会「合併疾患を有する気管支鏡検査と その対策；糖尿病」	2006年7月	糖尿病患者における気管支鏡検査の注意点を講 演した。
第46回臨床呼吸機能講習会	2006年8月	若手医師。コメディカルに呼吸機能を講義した。
第47回臨床呼吸機能講習会	2007年8月	若手医師。コメディカルに呼吸機能を講義した。
モンゴル医療ボランティア	2007年8月	他大学の呼吸器内科 日本からスパイロメータを持参して実技講習し た。
第17回日本呼吸ケア・リハビリテーション 学会学術集会教育セミナー「呼吸リハビリ テーションにおける栄養療法の役割；タン パク質代謝を中心に」	2007年10月	呼吸リハビリテーションにおける運動療法の効 果を高めるための栄養療法の重要性を講演した。
第210 埼玉県病院薬学研修会「喘息の診療」	2008年4月	病院薬剤師に喘息の臨床について講演した。
日本呼吸器学会平成20年度関東支部呼吸の 日 市民公開講座『肺と健康；慢性呼吸不 全と酸素飽和度』	2008年5月	埼玉県民呼吸不全と酸素飽和度を理解できるよ うに分かり易く講演した。
第48回臨床呼吸機能講習会	2008年8月	若手医師。コメディカルに呼吸機能を講義した。
第3回埼玉県鍼灸師学術講習会「COPDの病 態」	2008年11月	鍼灸師にCOPDの臨床について講演した。

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院呼吸器内科	教授	相良 博典	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
1993年5月～現在	日本医師会認定産業医		
1993年～現在	日本医師会スポーツドクター 認定医		
1993年～現在	日本免疫学会		
1995年～現在	American Thoracic Society 正規会員		
1995年～現在	European Respiratory Society 正規会員		
1998年～現在	日本アレルギー学会 評議員		
1999年～現在	日本血管生物医学会		
2000年～現在	日本救急医学会		
2000年～現在	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会		
2001年～現在	日本内科学会 認定内科医		
2001年～現在	日本化学療法学会		
2001年～現在	日本炎症・再生医学会		
2002年～現在	日本肺癌学会		
2002年～現在	日本呼吸器内視鏡学会		
2002年～現在	日本内科学会 認定専門医		
2002年～現在	日本アレルギー学会 専門医		
2004年～現在	日本アレルギー学会 代議員		
2004年～現在	日本臨床腫瘍学会		
2005年～現在	日本静脈経腸栄養学会 Total Nutritional Therapy 認定医		
2005年～現在	日本アレルギー学会 ガイドライン作成委員		
2005年～現在	日本アレルギー学会 試験問題作成委員		
2006年～現在	日本アレルギー学会 指導医		
2006年～現在	日本アレルギー学会 雑誌編集委員		
2006年～現在	日本呼吸器学会 専門医		
2006年～現在	日本老年医学会 専門医		
2007年～現在	日本感染症学会 ICD		
2008年～現在	日本呼吸器学会 雑誌編集委員		
2008年～現在	日本呼吸器学会 禁煙推進委員		
2008年～現在	日本呼吸器学会 アレルギー・免疫・炎症学術部会委員		
2008年～現在	日本リウマチ学会 指導医		
2008年～現在	日本禁煙学会 禁煙専門指導医		
2008年～現在	日本禁煙学会 Scientific Advisor		
2009年～現在	日本呼吸器学会 指導医取得見込		

### Ⅲ 研究活動

#### 【学位論文】

#### 【著 書】

欧文

1. Fueki N, Sagara H, Ohta M, Akimoto K, Okada T, Sugiyama K, Fueki M, Makino S, Fukuda T: Interleukin 10 up-regulates Smad7 expression in cultured epithelial cells. Proceeding of the 6<sup>th</sup> Asia Pacific Congress of allergology and clinical immunology, pp135-138. Medimond, Italy, 2004.
2. Makino S and Sagara H: Present status of prevalence and management of chronic respiratory disease in Asia-Pacific. Elsevier Japan, 2006.

和文

1. 相良博典: 気管支拡張薬 (3) テオフィリン薬. 臨床に直結する呼吸器疾患治療のエビデンス. (長瀬隆英、大石展也編) pp43-45. 文光堂 東京 2005.
2. 相良博典: ロイコトリエン受容体拮抗薬. 長瀬隆英、大石展也編、臨床に直結する呼吸器疾患治療のエビデンス. pp46-48. 文光堂 東京 2005.
3. 相良博典: 喘息予防・管理ガイドライン 2006. 監修 社団法人日本アレルギー学会 喘息ガイドライン専門部会、協和企画 東京 2006.
4. 相良博典: 喀痰でわかること. 気管支喘息のすべて. (工藤翔二監修、大田 健、一ノ瀬正和 編) pp140-143. 文光堂 東京 2007.
5. 相良博典: クレオラ体とは. 気管支喘息のすべて. (工藤翔二監修、大田 健、一ノ瀬正和 編) pp144-145. 文光堂 東京 2007.
6. 相良博典: 誘発痰の標準法. 気管支喘息のすべて. (工藤翔二監修、大田 健、一ノ瀬正和 編) pp146-147. 文光堂 東京 2007.
7. 相良博典: 究極の喘息教室をめざして.-臨床医のための喘息教室ガイド 監修. ソネット・エムスリー 東京 2008.

#### 【原 著】

欧文

1. Ota M, Nakao A, Sugiyama K, Cheng G, Akimoto K, Okada T, Sagara H: Airway expression of Smad7, a TGF- $\beta$ -inducible inhibitory molecule of TGF- $\beta$  signaling, decreases after repeated airway antigen challenges. Dokkyo J Med Sci 31: 17-26, 2004.
2. Coward WR, Sagara H, Wilson SJ, Holgate ST, Church MK: Allergen activates peripheral blood eosinophil nuclear factor-kappa B to generate granulocyte macrophage-colony stimulating factor, tumour necrosis factor-alpha and interleukin-8. Clin Exp Allergy 34: 1071-8, 2004.
3. Sagara H, Okumura S, Fukuda T, Saito H, Okayama Y: Fc $\epsilon$ RI-mediated amphiregulin production by human mast cells increases mucin gene expression in epithelial cells. J Allergy Clin Immunol 115: 272-279, 2005.
4. Makino S, Adachi M, Ago Y, Akiyama K, Baba M, Egashira Y, Fujimura M, Fukuda T, Furusho K, Iikura Y, Inoue

- H, Ito K, Iwamoto I, Kabe J, Kamikawa Y, Kawakami Y, Kihara N, Kitamura S, Kudo K, Mano K, Matsui T, Mikawa H, Miyagi S, Miyamoto T, Morita Y, Nagasaka Y, Nakagawa T, Nakajima S, Nakazawa T, Nishima S, Ohta K, Okubo T, Sakakibara H, Sano Y, Shinomiya K, Takagi K, Takahashi K, Tamura G, Tomioka H, Yoyoshima K, Tsukioka K, Ueda N, Yamakido M, Hosoi S, Sagara H: Pharmacologic control of asthma. *Int Arch Allergy Immunol* 136: 14-49, 2005.
5. Makino S, Adachi M, Ago Y, Akiyama K, Baba M, Egashira Y, Fujimura M, Fukuda T, Furusho K, Iikura Y, Inoue H, Ito K, Iwamoto I, Kabe J, Kamikawa Y, Kawakami Y, Kihara N, Kitamura S, Kudo K, Mano K, Matsui T, Mikawa H, Miyagi S, Miyamoto T, Morita Y, Nagasaka Y, Nakagawa T, Nakajima S, Nakazawa T, Nishima S, Ohta K, Okubo T, Sakakibara H, Sano Y, Shinomiya K, Takagi K, Takahashi K, Tamura G, Tomioka H, Yoyoshima K, Tsukioka K, Ueda N, Yamakido M, Hosoi S, Sagara H: Epidemiology of asthma. *Int Arch Allergy Immunol* 136: 5-13, 2005.
6. Makino S, Adachi M, Ago Y, Akiyama K, Baba M, Egashira Y, Fujimura M, Fukuda T, Furusho K, Iikura Y, Inoue H, Ito K, Iwamoto I, Kabe J, Kamikawa Y, Kawakami Y, Kihara N, Kitamura S, Kudo K, Mano K, Matsui T, Mikawa H, Miyagi S, Miyamoto T, Morita Y, Nagasaka Y, Nakagawa T, Nakajima S, Nakazawa T, Nishima S, Ohta K, Okubo T, Sakakibara H, Sano Y, Shinomiya K, Takagi K, Takahashi K, Tamura G, Tomioka H, Yoyoshima K, Tsukioka K, Ueda N, Yamakido M, Hosoi S, Sagara H: Research group for asthma prevention and management guidelines, definition diagnosis, disease types, and classification of asthma. *Int Arch Allergy Immunol* 136: 3-4, 2005.
7. Masuda H, Manaka T, Toda M, Sugiyama K, Sagara H: Antigen challenge-induced expression of Amphiregulin by mast cells increases goblet-cell hyperplasia in a mouse model of asthma. *Dokkyo J Med Sci* 33: 43-53, 2006.
8. Sagara H, Fueki N, Akimoto K, Ota M, Okada T, Sugiyama K, Fueki M, Makino S, Fukuda T: Interleukin 10 regulates transforming growth factor- $\beta$  signaling in cultured human bronchial epithelial cells. *Respiration* 74: 454-459, 2007.
9. Hatsushika K, Hirota K, Harada M, Sakashita M, Kanzaki M, Takano S, Doi S, Fujita K, Enomoto R, Matsumoto K, Saito H, Ogawa H, Tamari M, Nakao A. T, Ebisawa M, Yoshihara S, Sagara H, Fukuda T, Masuyama K, Katoh R: Transforming growth factor-beta (2) polymorphisms are associated with childhood atopic asthma. *Clin Exp Allergy* 37: 1165-1174, 2007.
10. Nakao I, Kanaji S, Ohta S, Matsushita H, Arima K, Yuyama N, Yamaya M, Nakayama K, Kubo H, Watanabe M, Sagara H, Sugiyama K, Tanaka H, Toda S, Hayashi H, Inoue H, Hoshino T, Nakajima A, Inoue M, Suzuki K, Aizawa H, Okinami S, Nagai H, Hasegawa M, Fukuda T, Green ED, and Izuhara K: Identification of Pendrin as a Common Mediator for Mucus Production in Bronchial Asthma and Chronic Obstructive Pulmonary Disease. *J Immunol* 108: 6262-6269, 2008.
11. Sagara H, Okada T, Sugiyama K, Ohta M, Kashima R, Yukawa T, Fukuda T: Effect of oral procaterol in combination with inhaled corticosteroids in adults patients with bronchial asthma. *Dokkyo J Med Sci* 35: 153-159, 2008.
12. Sagara H, Yoshioka M, Takahashi F, Harada N, Nishio K, Mori A, Ushio H, Shimizu K, Okada T, Ota M, Yoichi M, Ito, Nagashima O, Atsuta R, Suzuki T, Fukuda T, Fukuchi Y, Takahashi K: Role of multidrug

resistance-associated protein 1 in the pathogenesis of allergic airway inflammation. Am J Physiol - Lung C 296: 30-36, 2009.

13. Sagara H, Yukawa T, Kashima R, Okada T and Fukuda T: Effects of pranlukast hydrate on airway hyperresponsiveness in non-asthmatic patients with Japanese Cedar Pollinosis. Allergol Int, 58: 277-87, 2009.
14. Sagara H, Okayama Y, Okumura S, Yuki K, Sakaki T, Watanabe N, Fueki M, Sugiyama K, Takeda K, Fukuda T, Saito H, Ra C: FcεRI-mediated thymic stromal lymphopoietin production by IL-4-primed human mast cells. Eur Respir J, 2009, in press.

#### 和文

1. 太田真弓、相良博典、岡田壮令、福田健: マクロライドの新作用研究 2003-動物モデル ロキシスロマイシンのモルモット慢性喘息モデルに与える影響. The Japanese Journal of Antibiotics 57: 76-78, 2004.
2. 相良博典、平田博国、杉山公美弥、眞塩一樹、山田一成、福田 健: 持続型成人喘息患者におけるベクロメタゾンHFA製剤 (BDP-HFA) からブデソニド (BUD-DPI) へ変更した際の臨床効果の検討. アレルギー・免疫 13: 58-67, 2006.
3. 岡田壮令、相良博典、太田真弓、増田浩之、眞塩一樹、笹木 真、笹木直人、福田 健: IgE産生に与える好酸球上CD40リガンドの役割. Dokkyo J Med Sci 33: 95-104, 2006.
4. 太田真弓、相良博典、増田浩之、岡田壮令、笹木直人、笹木真、杉山公美弥、福田健: モルモット気道壁モデルにおけるロキシスロマイシンの効果. アレルギー・免疫 13: 88-97, 2006.
5. 笹木直人、太田真弓、秋元一三、岡田壮令、笹木 真、牧野荘平、相良博典: 培養ヒト気管支上皮細胞における各種サイトカイン刺激がTGF-βシグナルに及ぼす影響. Dokkyo J Med Sci 33: 125-132, 2006.
6. 相良博典、木代泉、眞塩一樹、杉山公美弥、山田一成、福田健: 遷延性/慢性乾性咳嗽患者のカプサイシン誘発咳感受性に対するブデソニドドライパウダー吸入製剤の効果. アレルギー・免疫 14: 112-120, 2007.
7. 笹木直人、相良博典、太田真弓、秋元一三、岡田壮令、杉山公美弥、笹木真、牧野荘平、福田健: IL-10はSmad7発現を誘導し、TGF-βシグナルを制御する (気道上皮細胞におけるTGF-βシグナル). 呼吸器 26: S17-S20, 2007.
8. 相良博典、杉山公美弥、木代泉、福島史哉、渡邊直人、福田健: 臨床:咳嗽を伴う気管支喘息に対する麦門冬湯の有用性の検討. 漢方と免疫・アレルギー 21: 104-116, 2007.
9. 笹木 真、橋井敦子、秋元一三、笹木直人、太田真弓、岡田壮令、杉山公美弥、牧野荘平、相良博典: 培養気道上皮細胞および平滑筋細胞における気道リモデリング関連サイトカイン遺伝子発現におよぼす神経ペプチドの影響. Dokkyo J Med Sci 35: 85-92, 2008.
10. 杉山公美弥、相良博典、福田健: 気管支喘息の早期診断基準の提言. アレルギー 57: 1275-1283, 2008.

#### 【症例報告】

1. 前澤玲華、武田 昭、相良博典、福島康次、戸田正夫、石井芳樹、福田 健: 多発性硬化症様の神経症状合併シェーグレン症候群に皮下組織のサルコイド肉芽腫を認めた1例. 関東リウマチ 37: 77-86, 2004.
2. 前澤玲華、武田 昭、増田浩之、相良博典、戸田正夫、倉沢和宏 福島康次、石井芳樹、福田 健: 血球貪食症候群が緩解した後に肺出血を来たしたoverlap症候群の1例. 関東リウマチ 38: 146-154, 2005.

## 【総説】

和文

1. 相良博典: テオフィリンのTGF- $\beta$ シグナルへの影響. Medical Tribune 5: 3, 2004.
2. 岡田壮令, 相良博典: TGF- $\beta$ と気道リモデリング. 臨床免疫 41: 350-354, 2004.
3. 太田真弓, 相良博典, 杉山公美弥, 青木裕美子, 岡田壮令, 福田健, 秋元一三, 中尾篤人: 気管支喘息の病態形成におけるTGF- $\beta$ シグナル伝達分子Smadの役割(会議録)呼吸 23: 406-409, 2004.
4. 相良博典: テオフィリンの喘息治療における使用と問題点-基礎 2) テオフィリンの抗炎症作用(解説)アレルギー・免疫 11: 1190-1195, 2004.
5. 相良博典: 気管支喘息の臨床 気管支喘息治療のガイドライン(解説). 医学のあゆみ 210: 846-850, 2004.
6. 相良博典: EBMに基づいた喘息治療ガイドライン 2004 厚生労働科学特別研究事業診療ガイドラインのデータベース化に関する研究班作成 49-91, 2004.
7. 相良博典: 気管支喘息の気道狭窄病態におけるロイコトリエンの役割. アレルギー・免疫 11: 24-31, 2004.
8. 相良博典, 福田健: 喘息気道リモデリングの予防に最も有効な薬剤は何か. Asthma Frontier 3: 86-95, 2004.
9. 相良博典: 家庭医学大全科, 株式会社法研 2871-2878, 2883-2887, 2004.
10. 相良博典: EBMに基づいた喘息治療ガイドライン 2004. 漢方と免疫・アレルギー, 19: 63-97, 2004.
11. 相良博典: 抗炎症作用-気道リモデリングへの効果. 分子呼吸器病 9: 39-44, 2005.
12. 相良博典: 徐放性テオフィリン. 治療学 39: 69-73, 2005.
13. 相良博典: テオフィリン薬とPDE阻害薬の今後. 喘息 18: 55-63, 2005.
14. 相良博典: 上気道と下気道のアレルギー: 各種メディエーターからみた関連. アレルギーの臨床 25: 21-26, 2005.
15. 相良博典: 吸入ステロイド薬の吸収特性と安全性. アレルギー科 19: 421-428, 2005.
16. 相良博典: COPDと気管支喘息の診断-喘息の立場から. Progress in Medicine 25: 27-32, 2005.
17. 相良博典: 気管支喘息の治療ガイドラインと評価: Mebio 22: 54-60, 2005.
18. 相良博典: 気道リモデリング・炎症マーカーによる診断と分類. カレントセラピー 23: 379-383, 2005.
19. 相良博典: 気管支喘息-麦門冬湯-「EBMに基づいた喘息治療ガイドライン 2004」における位置づけを中心として. Medicament News 1823: 1-4, 2005.
20. 相良博典: 学会レポート 第6回アジア太平洋アレルギー臨床免疫学会議. 感染・炎症・免疫 35: 83-85, 2005.
21. 相良博典: 気管支喘息の炎症メカニズムとその制御. 呼吸と循環 54: 227-234, 2006.
22. 相良博典: 気道リモデリングの治療法. アレルギー科 21: 582-589, 2006.
23. 相良博典: 杯細胞過形成の分子機序. アレルギー・免疫 13: 18-28, 2006.
24. 相良博典: サルメテロール/プロピオン酸フルチカゾン配合剤の是非. アレルギー 55: 794-810, 2006.
25. 相良博典, 平田博国: ハチアレルギーの現状と対策. Medico 37: 5-11, 2006.
26. 相良博典: 気道炎症の視点からみた気管支喘息と鼻アレルギーの異同. The 13<sup>th</sup> Symposium of Asthma in Tokyo 30-41, 2006.
27. 相良博典: 第2回米国アレルギー・喘息・免疫学会聴講録 International Review of Asthma 8: 30-35, 2006.
28. 相良博典, 中川武正, 岡山吉道: University of Southamptonでの生活と研究. 喘息 19: 78-84, 2006.
29. 相良博典, 永井厚志, 久米裕昭: 治療を見据えてCOPDと喘息をどのように捉えるか. Mebio 23: 124-129, 2006.
30. 相良博典, 栗山喬之, 巽 浩一郎, 内山義之, 亀井淳三: 呼吸器疾患ガイドラインと漢方. 漢方医学 29: 252-263, 2006.
31. 相良博典: 長期管理の動向-徐放性テオフィリン薬の位置づけ-. Mebio 37: 401-406, 2006.

32. 相良博典: 喘息治療 最近の話題 慢性疾患の合併と喘息のQOL 地域住民を対象とした試験. Hotline of Asthma and Respiratory disease Update 3: 5-6, 2006.
33. 相良博典: 気管支喘息における併用療法. Medical Tribune 4: 7-8, 2006.
34. 相良博典: 気管支喘息:診断と治療の進歩 徐放性テオフィリン.日本内科学会雑誌 95: 63-68, 2006.
35. 堂前真理子、相良博典、福田健、上川雄一郎: ロイコトリエンC<sub>4</sub>合成酵素発現に対する炎症性サイトカインの影響. 呼吸 25: S29-30, 2006.
36. 相良博典: 序文. Progress in Medicine 27: 1281, 2007.
37. 相良博典: 吸入ステロイドの展望. 編集 序文 Progress in Medicine 27: 1281, 2007.
38. 杉山公美弥、相良博典: 各種吸入ステロイドの薬理学的特性. Progress in Medicine 27: 1289-1293, 2007.
39. 相良博典: 抗IgE抗体製剤、PDEIV阻害薬への期待 呼吸器NEWS & VIEWS 30: 17-21, 2007.
40. 相良博典: テオフィリンの抗炎症効果と喘息における位置づけ. 臨床免疫・アレルギー科 48: 60-64, 2007.
41. 相良博典: 長時間作用型β<sub>2</sub>選択的刺激薬.日本胸部臨床 66: 161-166, 2007.
42. 相良博典: 成人気管支喘息治療薬の選び方と使い方. 臨床免疫・アレルギー科 49: 286-292, 2008.
43. 相良博典: シクレソノドでの治療とは? Q&Aでわかるアレルギー疾患 4: 166-168, 2008.
44. 相良博典: 麦門冬湯運用ポイント 今日までの基礎・臨床研究から. 漢方医学 32: 146-147, 2008.
45. 相良博典、久米裕昭、金廣有彦: 吸入ステロイド薬から考える気管支喘息治療の全体像と今後の課題. Progress in Medicine 28: 1447-1454, 2008.
46. 相良博典: 免疫療法の将来展望:喘息における新規アプローチ. アレルギーの臨床 28: 30-36, 2008.
47. 相良博典: アレルギー性下気道炎症(気管支喘息)の病態生理. アレルギーの臨床 29: 17-23, 2009.
48. 相良博典: 喘息治療における新規アプローチ-抗体療法への期待-. Progress in Medicine 29: 57-60, 2009.
49. 金澤 實、相良博典、斉藤武文、周東 寛: COPDの診断と治療. メディカル朝日別冊 38: 1-7, 2009.
50. 相良博典: 気管支喘息. 漢方養生法: 82-83, 2009.
51. 足立満、相良博典、Jan Lotvall: 閉塞性肺疾患におけるサルメテロール/フルチカゾンプロピオン酸エステル配合剤(SFC)の可能性. International Review of Asthma 11:5-22, 2009.
52. 相良博典: 難治性喘息と液性因子-ケミカルメディエーター-ケモカイン・サイトカイン. The 28<sup>th</sup> Rokko Conference 難治性喘息をめぐる 37-43, 2009.

## 【その他】

和文

1. 福田健、相良博典: 気管支喘息の慢性化・難治化の予防を目指す、早期介入療法のための早期診断法の確立に関する研究—組織化学的解析の有用性に関する研究、TGF-βの細胞内シグナル伝達分子リン酸化Smad7 発現の基礎的検討. 平成 15 年度厚生科学研究費補助金、免疫・アレルギー等研究事業報告書, 20-22, 2004.
2. 福田健、相良博典: 気管支喘息の慢性化・難治化の予防を目指す、早期介入療法のための早期診断法の確立に関する研究—組織化学的解析の有用性に関する研究、TGF-βの細胞内シグナル伝達分子リン酸化Smad7 発現の基礎的検討. 平成 16 年度厚生科学研究費補助金、免疫・アレルギー等研究事業報告書, 23-26, 2005.
3. 福田健、相良博典: 気管支喘息の慢性化・難治化の予防を目指す、早期介入療法のための早期診断法の確立に関する研究・総合研究報告書—気道粘膜生検組織の免疫組織学的解析の有用性に関する検討. 平成 16 年度厚生科学



研究費補助金、免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業報告書, 52-56, 2006.

4. 福田健、相良博典、杉山公美弥: 喘息気道におけるamphiregulin、ムチン遺伝子発現の基礎的検討(分担研究). 17年度厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 研究報告会抄録集 8, 2006.
5. 福田健、相良博典、杉山公美弥: 喘息気道におけるamphiregulin、ムチン遺伝子発現の基礎的検討. 厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 気管支喘息の慢性化・難治化の予防を目指す、早期介入療法のための早期診断法の確立に関する研究(分担研究) 平成17年度総括・分担研究報告書(主任研究者 福田健) 19-22, 2006.
6. 福田健、相良博典、杉山公美弥: 気道粘膜生検組織の免疫組織学的解析の有用性に関する検討. 厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 気管支喘息の慢性化・難治化の予防を目指す、早期介入療法のための早期診断法の確立に関する研究(分担研究). 平成15-17年度総合研究報告書(主任研究者 福田健) 57-62, 2006.
7. 福田健、相良博典、杉山公美弥: アレルギー疾患の自己管理と個別化医療を目指した早期診断基準と早期治療の確立及びその有効性と有害事象の評価に関する研究(分担研究). 厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 アレルギー疾患の自己管理と個別化医療を目指した早期診断基準と早期治療の確立及びその有効性と有害事象の評価に関する研究(主任研究者 大田健)、平成18年度厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業研究報告書、第3分冊:295-296, 2007.
8. 福田健、相良博典、杉山公美弥: アレルギー疾患の自己管理と個別化医療を目指した早期診断基準と早期治療の確立及びその有効性と有害事象の評価に関する研究(分担研究). 厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業 アレルギー疾患の自己管理と個別化医療を目指した早期診断基準と早期治療法の確立及びその有効性と有害事象の評価に関する総合的研究. 平成18年度総括・分担研究報告書(主任研究者 大田健), 13-14, 2007.

教育・研究業績書

診療科名	職名	氏名	
越谷病院呼吸器内科	准教授	一和多 俊男	大学院の研究指導担当資格 有
<b>Ⅱ 学会等および社会における主な活動</b>			
1981年10月～現在	日本肺癌学会正会員		
1983年4月～現在	日本呼吸学会 正会員		
	日本呼吸器学会 評議員		
	日本呼吸器学会 用語委員会委員		
1986年1月～現在	日本呼吸器内視鏡学会 正会員		
	日本呼吸器内視鏡学会 評議員		
1987年6月～現在	日本内科学会 正会員		
1987年6月～現在	日本内科学会正会員		
1990年4月～現在	日本内科学会 認定内科医日本気管食道学会正会員		
1990年9月～現在	日本内科学会 評議員、監事		
	日本内科学会 編集委員会委員		
	日本臨床生理学会 正会員		
1990年10月～現在	日本アレルギー学会 正会員		
1993年1月～現在	日本内視鏡学会 専門医		
1993年3月～現在	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会正会員		
1993年6月～現在	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 評議員		
	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 編集委員会委員		
	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 将来計画委員会委員		
	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 財務委員会委員		
	日本肺嚢胞・気胸学会正会員		
1994年4月～現在	日本呼吸器学会 専門医		
1998年1月～現在	日本呼吸器内視鏡学会 評議員		
2000年6月～現在	日本肺嚢胞・気胸学会 評議員		
	日本肺嚢胞・気胸学会 編集委員会委員		
2002年10月～現在	American Thoracic Society 正会員		
2003年4月～現在	日本臨床腫瘍学会正会員		
2004年1月～現在	呼吸器指導医 (2004. 1. 15 取得)		

### Ⅲ 研究活動

#### 【学位論文】

#### 【著 書】

和文

1. 一和多俊男、長尾光修：各病態の呼吸管理のポイント。「呼吸療法入門」（沼田克雄編） pp174-182 克誠堂出版 東京 2004.
2. 一和多俊男、呼吸機能検査。「呼吸器研修医ノート」（永井良三編） pp326-332. 診断と治療社 東京 2004.
3. 一和多俊男、外科療法・感染対策。「慢性閉塞性肺疾患(COPD)のマネージメント」（堀江孝至編） pp94-98. 医歯薬ジャーナル 東京 2004.
4. 一和多俊男、長尾光修、急性間質性肺炎。「呼吸器疾患ガイドライン」（松岡健編） pp104-107. 総合医学社 東京 2004.
5. 一和多俊男、COPD患者における運動時のSpO<sub>2</sub> 値の解釈。「呼吸器診療のコツと落とし穴；閉塞性肺疾患・呼吸不全」（工藤翔二編） pp30-31. 中山書店 東京 2005.
6. 一和多俊男、呼吸ケアに必要な生理機能検査。「呼吸ケア実践ハンドブック」（永井厚志編） pp23-28. 南江堂 東京 2005.
7. 一和多俊男、酸素中毒。「酸素療法ガイドライン」（日本呼吸器学会肺生理委員会/日本呼吸管理学会酸素療法ガイドライン作成委員会酸素療法ガイドライン編集） pp68-70. メディカルレビュー社 東京 2006.
8. 一和多俊男、長尾光修、胸膜炎。「別冊・医学のあゆみ呼吸器疾患 ver. 5 -state of arts」（北論, 工藤翔二, 石井芳樹編） pp367-369. 医歯薬出版 東京 2007.
9. 一和多俊男、運動負荷試験。「包括的呼吸リハビリテーション」（塩谷隆信編） pp171-179. 新興医学医出版 東京 2007.
10. 一和多俊男、長尾光修、肺線維症の患者の運動処方。「呼吸器疾患の運動療法と運動負荷テスト」（谷本晋一編） pp222-227. 克誠堂出版会社 東京 2007.
11. 一和多俊男、運動負荷試験。「呼吸器専門医テキスト」（工藤翔二, 中田紘一郎, 永井厚志, 太田健編） pp165-168. 南江堂 東京 2007.
12. 一和多俊男、長尾光修：各病態における呼吸管理のポイントCOPD。「改訂第2版入門呼吸療法」（沼田克雄監修, 大村昭人, 安本和正編） pp174-182. 克誠堂出版会社 東京 2008.
13. 一和多俊男、呼吸筋力の増強は可能か?。「人工呼吸療法における30の謎」（安本和正, 小谷透編） pp169-174. 克誠堂出版会社 東京 2008.
14. 一和多俊男、肺の動的過膨張。「COPDのすべて」（工藤翔二監修, 永井厚志, 一ノ瀬正和編） pp69-71. 文光堂 東京 2008.
15. 一和多俊男：肺にやさしい呼吸管理法とは；最近のエビデンスから一圧損傷などから肺を守る診断と治療 97(1) : pp148-152, 2009.
16. 一和多俊男、薬物による呼吸筋不全 呼吸器症候群（第2版）Ⅱ pp472-476, 2009.
17. 一和多俊男、運動負荷試験 呼吸理学療法 第2版 宮川哲夫編 三輪書店（東京） pp175-186, 2009.
18. 一和多俊男、現場の疑問に答える呼吸リハビリ 徹底攻略Q&A 塩谷隆信・高橋仁美編 中外出版（東京） pp109-100, 2009.

19. 一和多俊男、長尾光修、間質性肺炎 急性間質性肺炎 呼吸器疾患ガイドライン-最新の診療指針- 改訂版 松岡健編 総合医学社（東京） pp106-109, 2009.

### 【原 著】

欧文

1. Inoue Y, Trapnell RC, Tazawa R, Arai T, Takeda Toshinori, Hizawa Nobuyuki, Kasahara Y, Tatsumi K, Hojo M, Ichiwata T, Tanaka N, Yamaguchi E, Eda R, Oishi K, Tsuchihashi Y, Kaneko C, Nukiwa T, Sakatani M, Krischer JP, Nakata K: Characteristics of a large cohort of patients with autoimmune pulmonary alveolar proteinosis in Japan. Am J Respir Crit Care Med 177: 752 -762, 2008.
2. Hayashi S, Asai Y, Gon Y, Kobayashi T, Ichiwata T, Shimizu K, Hashimoto S.: Analysis of gene expression in human bronchial epithelial cells upon influenza virus infection and regulation by p38 MAP kinase and JNK. Respirology 13:203-214, 2008.
3. Hirose M, Honda J, Sato E, Shinbo T, Kokubo K, Ichiwata T, Kobayashi H: Benchstudy of auto-CPAP device using a collapsible Airway Model with Upstreamresistance. Respiratory Physiology & Neurobiology 15 : 7, 2008.
4. Miwa M, Ohmori K, Fukuda K, Kohyama K, Kanoh N, Iwasaki Y, Nakajima N, Yamaguchi S, Ichiwata T, Nagao K, Miwa M, Watanabe K, Control of transepithelial electrical resistance onPrimary cultured airway tracheal cells excised from guinea pig. Proceeding of AirwaySecretion Research, 11: 1-4, 2009.
5. Ichiwata T, Sasao G, Abe T, Kikuchi K, Koyama K, Fujiwara F, Nagai A, Kuwahira I, Nagao K ; Oxidative Capacity of the Skeletal Muscle and Lactic Acid Kinetics during Exercise in Healthy subjects and Patients with COPD. ADANCES IN EXPERIEMENTAL MEDICINE AND BIOLOGY (in press).
6. Ishii H, Trapnell B, Tazawa R, Inoue Y, Akira M, Kogure Y, Tomii K, Takeda T, Hojo M, Ichiwata T, Goto H, Nakata K; Comparative Study of High-Resolution CT Findings between Autoimmune and Secondary Pulmonary Alveolar Proteinosis. Chest (in press).

和文

1. 鬼頭愛、小山信一郎、染谷光一、井上貴史、高橋克弘、羽田憲彦、倉島一喜、鈴木恒夫、桂秀樹、一和多俊男、長尾光修、滝沢敬夫：埼玉県内における在宅酸素療法患者のアンケート調査。日呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 16:297-304. 2006.
2. 一和多俊男、内山健二、小島寿郎、高山明美、池上岳、赤坂圭一、高山賢哉、藤原寛樹、長尾光修、三輪正人、渡辺健介：Asthma Control Test (ACT) を用いた気管支喘息患者の臨床的検討。日気食会報 59:406-413, 2008.
3. 三輪正人、中島規幸、村上敦史、渡辺健介、高山賢哉、一和多俊男、長尾光修：気管の酸素暴露モデルの作成とプロトンインヒビターの効果の検討。日気食会報 59:401-405, 2008.
4. 一和多俊男、内山健二、佐藤英幸、菊池清和、相馬亮介、高山賢哉、阿部篤郎、藤原寛樹、長尾光修：慢性呼吸器疾患患者に対する運動時の携帯用酸素濃縮器 AIRWALK AW-1®の酸素供給効果。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 18:182-186, 2008.
5. 一和多俊男、時田心吾、相馬亮介、菊池清和、赤坂圭一、小島寿郎、高山賢哉、阿部篤朗、藤原寛樹、長尾光修：肺蛋白症に対する片側全肺洗浄の経験と洗浄手順を選択するためのアルゴリズムについて 日本呼吸会誌 47:185-195, 2009.

## 【症例報告】

欧文

1. Uchiyama M, Nagao T, Hattori A, Fujii T, Ichiwata T, Nakata K, Hayashi T; Pulmonary alveolar proteinosis in a patients with Bechet's disease, ¥. Resoirology 14:305-308, 2009.
2. Uchiyama M, Hattori A, Tanaka T, Miyaji T, Matsuki Y, Fujii T, Ichiwata T, Hayashi T, Ikeda T; Acute idiopathic thrombocytopenic purpura complicated with diffuse alveolar hemorrhage in an elderly Ppatient. Internal Medicine (in press).

和文

1. 高山賢哉、高山明美、佐藤英幸、赤坂圭一、一和多俊男、浜島吉男、長尾光修:肺嚢胞壁周囲に沿って浸潤増殖を示した肺腺癌の1手術例. 日気食会報 57: 307-311, 2006.
2. 赤坂圭一、時田心吾、高山明美、池上岳、高山賢哉、藤原寛樹、一和多俊男、長尾光修: 健常成人で眼内炎を併発した敗血症性肺塞栓症の1例. 日呼吸会誌 46:291-296, 2008.

## 【総 説】

欧文

1. Hashimoto S, Matsumoto K, Gon Y, Ichiwata T, Pawankar R, Takahashi N. ; Update on Airway Inflammation and Remodeling in Asthma. Allergy Clin Immunomol Int - J World Allergy Org 19:178-184, 2007.
2. Hashimoto S, Matsumoto K, Gon Y, Ichiwata T, Takahashi N, Kobayashi T. ; Viral Infection in Asthma. Allergology Internatnal 57:21-31, 2008.

和文

1. 一和多俊男:呼吸機能検査応用. 呼吸 24:409-414, 2005.
2. 一和多俊男:COPDにおける呼吸困難. Progress in Medicine 25:13-17, 2005.
3. 一和多俊男:非結核性抗酸菌症を合併した気管支拡張症. 今月の治療 13:895-901, 2005.
4. 一和多俊男:COPD患者の下肢骨格筋エネルギー代謝. 日呼管誌 14:415-419, 2005.
5. 一和多俊男:COPDにおける息切れと運動耐容能の規定因子. COPD Frontier 5:165-170, 2006.
6. 一和多俊男:パルスオキシメーターを使いこなす. 日呼管誌 15:282-286, 2006.
7. 一和多俊男:気管支鏡. 日本気管食道科学会報 57:328-329, 2006.
8. 一和多俊男:気道炎症を評価する①-呼吸機能検査-THE LUNG perspectives 16:70-74, 2008.
9. 一和多俊男:パルスオキシメーター臨床応用 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 17:225-230, 2007.
10. 一和多俊男:COPD患者における骨格筋障害に対する栄養療法の重要性 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 18:40-43, 2008.

## 【その他】